

坂本和一教授退任記念論文集の刊行にあたって

経済学部長・経済学会会長 平 田 純 一

坂本和一先生は、2005年3月をもって、ご定年により立命館大学経済学部教授の職を退かれました。教員の退任記念号はご退任までに刊行することが慣例ですが、坂本先生はご定年時に学校法人立命館副総長・立命館大学副学長に在任中であり、結果的に退任記念号の刊行がご定年の1年後となりましたことを先ずお詫び申し上げます。

坂本先生は、1939年に石川県でお生まれになり、1963年に京都大学経済学部をご卒業後、京都大学大学院経済学研究科に進まれ、1965年に修士課程を修了され、1968年に博士課程を単位取得退学後直ちに立命館大学経済学部の「工業経済論」担当の専任講師として赴任されました。その後、1969年に助教授、1978年に教授に昇任されました。この間、1975年には京都大学から経済学博士の学位を授与されました。

坂本先生は、1988年度から立命館大学教学部長、1990-91年度は学校法人立命館常務理事（教学担当）（1990-91年度は教学部長を兼任）、1994年度からは学校法人立命館副総長・立命館大学副学長、2000年1月から2003年度末まで学校法人立命館副総長・立命館アジア太平洋大学学長、2004年度は再び学校法人立命館副総長・立命館大学副学長など多くの役職をご歴任されました。以上のご経歴から容易に理解いただけるように、坂本先生は学校法人立命館が現在の地位を築きあげる過程において、行政面における中核として先頭に立ってこられた、と言うことができます。

坂本先生の研究業績は、単著14冊、共編著4冊、論文75本など多数にのほりますが、ご研究の内容は5つの分野に区分して考えることができます。その第一の業績は、巨大企業の生産様式の特徴を実証的に明らかにされたことです。現代資本主義の支配的な産業資本である巨大企業の生産様式が『資本論』での諸規定といかに隔たりを持って展開しているかについて、生産力構造と生産関係の両面（前者に重点を置きながら）から明らかにされました。第二の業績は、現代巨大企業の全体像を構造的に把握することの重要性を明らかにされたことです。具体的には、現代巨大企業は経営構造と所有・支配構造の両面から把握すべきこと、現場活動単位→事業構造→巨大企業（多事業統合単位）という三重の構造を持つこと、その経営構造は単に構造論的だけではなく機能論的（巨大企業の組織構造の各レベルと競争戦略が相関）に捉えることが重要である、と指摘されました。このことに関わって、IBMやGE、さらにはコンピュータ産業を対象にした緻密な実証研究を行われました。この中には、第2回テレコム社会科学賞を受賞された、『IBM—経営戦略と組織改革』が含まれています。第三の業績は、二一世紀資本主義経済システムの現段階を研究されたことです。この研究は生産システムと世界システムの両システムともが大きな転換期を迎えているとの認識から行われました。第四の業績は、企業組織の新しいあり方を研究されたことです。取引コスト・アプローチ、協調ゲーム・アプローチ、組織的知識創造アプローチを取り

上げ、組織均衡論の現実性を現代企業組織の現実的課題と照らし合わせて評価されました。第五の業績は、アジア太平洋学の構築をされたことです。ネットワークの視点、長期の文明論的な視点、時代を創造するという政策的・戦略的な視点からアジア太平洋地域を把握し、人類史と文明の遷移と関わらせたアジア太平洋文明論、アジア太平洋時代の生産システム革新と企業組織モデル論を論じられました。

坂本先生は、2005年4月以降も特別任用教授として引き続き、教育・研究において、本学を支えて頂いております。これに加えて、2005年度に設置された大学評価室の初代室長として、行政面からも引き続き本学にご貢献を頂いております。坂本先生はご退職後も極めてお元気でいらっしゃいますので、今後とも後進へのご指導と援助を賜りますようお願い申し上げますと共に、先生の一層のご健勝とご活躍を祈念し、本論文集刊行にあたってのご挨拶とさせていただきます。